



第47回「おかねの作文」コンクール

おかねと自分

愛知県・犬山市立東部中学校 1年 舟橋 龍観

ぼくは、この夏、大反省をしました。

最近、一緒に住んでいる祖母が、いつもいろいろ手伝ってくれるお礼にと、お小遣いをくれました。普段は貯金して大切にしているのですが、今回は好きに使いなさいと言われたので、そのお金を持って、近所の夏祭りに行きました。年に一度のお祭りをぼくは毎年楽しみにしています。だから、祖母の言葉もあって、今年は、くじを引いたり、射的をしたり、食べ物を買ったり、とにかく思う存分楽しんで、財布のお金を全て使い果たしてしまっただけです。妹が欲しがりそうな夏祭りでしか手にできない光る小物も買ってあげて、その時は、大満足でした。しかし、その景品は、今では、ただの置き物になっています。

その数日後、友達と遊びに行くことになりました。でも、ぼくの財布の中身は、もう祭りで使ってありません。仕方なく、いざという時のためにとってあったお金を出してきました。それでも、みんなのように遊べないかもしれないと思いながら、遊びに行きました。この時、限られたお金を先のことまで考えて計画的に使うべきだったと強く思いました。

ぼくは、この出来事を通して、お金についていろいろ気付いたことがあります。

お金は、生活していく上で、絶対必要なものです。しかし、それはただ物を買うためだけにあるのではなく、目に見えない楽しみを得るためにも必要だということ。また、お金をくれた祖母にとって、それはうれしい気持ちや感謝の気持ちを表すものだったということ。こう考えると、お金はとても大きな役割を果たすものです。つまり、お金は、私たちの生活を物質的に満たすだけではなく、精神的にも豊かにしてくれる「喜び」の形かもしれません。特に、年金生活で、年老いて働くことのできない祖母にとって、お金は、大切なものであり、大きな意味をもっているんだと思います。それは、「お金はしっかり貯めなさいよ。将来、しっかり仕事ができるように、頑張りなさいよ。」という祖母のいつ

もの言葉からも分かります。

ここで、仕事とお金について考えるとき、ぼくも将来、こんなふうに働きたいと思わせてくれた人に、松下幸之助がいます。松下幸之助は、世界的家電メーカー、今の「パナソニック」を一から築きあげた人です。設立以来、常に事業を成長させ、一代で世界的な会社を創った努力の人として、「経営の神様」と呼ばれ、財界の有名人、政治家など多くの人たちが、彼が設立した「松下政経塾」で学んでいます。では、なぜそこまで彼は大事業を成し遂げられたのか。それは、彼の考え方と行動に、心がこもっていたからだとぼくは考えます。自己中心的なお金もうけのことを考えたのではなく、人に喜んでもらうにはどうしたらいいか、いつも考え、多くの体験と努力をしたからこそ、豊かになったという理想的な生き方を彼は教えてくれ、とても共感しました。

ぼくは、小さい頃から、人の役に立つことをしたいと思ってきました。この世の中には、いろいろな仕事がありますが、人が喜ぶことで仕事が成り立つと考えるならば、どんな仕事も人の役に立つんだと思います。

将来、ぼくが仕事をすることで、周りの人たちに貢献し、みんなに喜んでもらえたら、とてもうれしいです。また、みんなに喜んでもらった分、豊かになる。豊かになったら、さらに、もっとみんなが喜んでくれる活動をする。自分が豊かになれば、税金を払ったり、社会に貢献することもでき、社会的な役割も果たすことができる。そんなよい循環の中で自分は生きていきたいです。

最後になりますが、今年の夏祭りの体験を通して、もっとお金を有効に活用することに意識が向きました。お金を使うことで、自分と周りの人に、「喜び」の形が、どんどんふくらむように、自分が納得できるお金の使い方をしていきたいです。そして、将来、仕事をしたときに、社会的に貢献でき、お金を生み出せる人になれるように、今、お金を大切にしていこうと思います。

